全てのステークホルダーへ継続的に価値を創出するために ファイントゥデイグループが取り組む８つのマテリアリティ

Principles of Governance

ステークホルダーの誰からも信頼される存在になります。

透明・公正で信頼できる経営の推進

内部統制システムの適正な運用を含む、迅速で透明性を持った実効性あるコーポレート・ガバナンス体制を強化し続けます。

パーパスを実現する企業文化の醸成

わたしたちが目指すパーパスのもと、事業の成長とESG強化を経営の両輪とする企業文化を醸成していきます。

People

全ての人々を尊重し、相互に関係性を深めます。

バリューチェーンにおける人権の尊重とDE&I 促進

多様な価値観や考え、個性を持った人々が自分らしく生きる社会を実現するため、バリューチェーンにおける全ての人の基本的人権を尊重します。

社員のウェルビーイング向上

社員一人ひとりが身体的、精神的、社会的に充実した職業人生を全うできるよう、働きやすい社内環境や制度を整備・拡充し続けます。

Planet

バリューチェーンを通じて環境負荷を半減します。

気候変動への対応

事業活動で排出されるCO_2を削減するとともに、環境フレンドリー製品の普及を通じて使用場面でのCO_2削減にも取り組んでいきます。

自然・生物多様性保全と循環型社会の実現

バリューチェーン全体で自然環境への負荷低減、資源の有効活用を実践し、持続可能なビジネスモデルを構築します。

Prosperity

一人でも多くの生活者に素晴らしい今日を届けます。

日々の暮らしをより美しく豊かに彩るイノベーション

生活者の多様なニーズに応える新たな価値を創出し、心・身体・環境に美しさと豊かさを提供し続けます。

コミュニティのウェルビーイング向上

技術、人材、製品、資金などの経営資源を社会に還元することで、コミュニティの幸せと豊かさに貢献します。

日用美品メーカーとしての事業活動に即し マテリアリティと中長期目標を再設定

サステナビリティ分野における国際規範や各種ガイダンスを踏まえ、パーパス経営の実現やSDGsへの貢献といった観点から、2024年に新たに8つのマテリアリティと16の取り組み項目を再設定しました。
今後も、国際社会の動向や事業環境の変化を考慮し、適宜見直しを行っていきます。

マテリアリティ特定プロセス

改定のポイント
- ファブレス企業時に策定した以前のマテリアリティを日用品メーカーとしてのマテリアリティに変更
- マテリアリティと中長期目標を連動させ、事業活動の実態に即した「取り組み項目」を新たに設定

Step 1	取り組むべき社会課題の抽出	以下を参考に候補テーマをリストアップ。 ●国連グローバル・コンパクト　●ISO26000　●GRIスタンダード　●SDGs ●各ESG評価機関評価項目　●日本化粧品工業会マテリアリティ ●世界のメガトレンド　●社内の対話　●社外有識者アドバイス
Step 2	社会・事業インパクトの分析	事業の「機会」と「リスク」の観点で、当社グループの事業が社会に与えるインパクトや重要性をステークホルダーにヒアリング。社外有識者の意見も踏まえ、インパクトの大きさを分析。 対象ステークホルダー：投資家、NGO団体、取引先、当社グループ役員・社員
Step 3	マテリアリティの妥当性・優先度の特定	Step 2で行ったインパクト分析の結果をもとに、マテリアリティマトリクスを作成。ステークホルダーからの要求度が高く、事業に与えるインパクトの大きいものに加え、社外有識者のアドバイスから当社グループや当業界に求められる要素を追加し、8のマテリアリティとそれに紐付く16の取り組み項目を特定。
Step 4	マネジメント会議（執行役員会）・取締役会などでの承認	特定した8のマテリアリティと16の取り組み項目をマネジメント会議（執行役員会）・取締役会・サステナビリティ委員会で承認。

インパクト分析の結果、優先度が高いと特定された項目
- 持続可能な原材料の調達
- サステナブルな容器開発
- 温室効果ガス排出の削減
- 環境配慮商品・サービスの開発
- 持続可能な資源利用
- 水資源の保全
- 製品・原料の安全性管理
- データセキュリティ
- 原料規制の変化への対応
- 情報開示の充実
- 人権の尊重
- 平等な機会とインクルーシブな世界の実現（DE&I）
- イノベーション

＋

有識者のアドバイスをもとに追加した項目
- 廃棄物の削減
- 生物多様性の保全
- パーパスの追求
- 透明なガバナンス強化
- 倫理的な行動
- ジェンダーにとらわれない労働環境の整備
- 製品を通じたときめき体験によるQOLの向上
- 職場における人材育成
- ウェルビーングの向上
- グローカリゼーションでのコミュニティ貢献

▶ **全23項目を8つのマテリアリティと16の取り組み項目に絞り込み**

マテリアリティの実現に向け、項目ごとに戦略KPIを設定 PDCAサイクルを回すことで、着実に活動を推進

ガバナンスの原則 Principles of Governance

マテリアリティ	コミットメント	取り組み項目	KPI項目	数値目標（達成年度）	2024年度実績	2025年度施策	関連するSDGs
透明・公正で信頼できる経営の推進	お客さま、お取引先さま、株主の皆さまをはじめとする全てのステークホルダーからのご要望に応える迅速で透明性のある経営体制を目指し、実効性あるコーポレート・ガバナンス体制を構築します。また、内部統制システムの適正な運用にも継続的に取り組み、コーポレート・ガバナンス強化に努めます。	ガバナンス強化・コンプライアンス遵守・リスクマネジメント推進	重大なコンプライアンス違反件数※1	0件継続（毎年度）	0件	●コンプライアンス教育・研修を実施 ●BCPを策定し、物理リスクへの対策を強化	8 12 13
		情報・サイバーセキュリティへの対応	情報セキュリティ研修とサイバーセキュリティ訓練の継続実施	数値目標なし（毎年度）	研修：1回 訓練：3回	●情報セキュリティ研修を実施 ●標的型攻撃メール訓練やCSIRT訓練を実施	8 12
	製品の信頼性が保証され、リスクが適切に管理される安全・安心な社会の構築に貢献します。	製品の信頼性保証活動の推進	品質に関する重大な事故件数※2	0件継続（毎年度）	0件	●品質マネジメントシステムを中国、東南アジアの各支社にも展開し、海外での品質保証活動を拡充	8 12
パーパスを実現する企業文化の醸成	「世界中の誰もが、素晴らしい一日を紡ぎ、いつまでも美しく、豊かな人生を送れるようにする」というパーパスのもと、事業運営とESG推進を経営の両輪として、社会の持続可能性の実現に寄与する企業文化を醸成し続けます。	一人ひとりが当社パーパスに向きあう機会の提供	エンゲージメントサーベイにおけるパーパス・ビジョンに対する肯定回答率	88%（2030年度）	83.0%※3	●全社会議の開催など、パーパスについて考える機会を提供	8 12 16

※1 公益を損害し、対外公表するべき事象。
※2 独立行政法人医薬品医療機器総合機構に報告が必要な重篤な身体トラブル件数。
※3 対象はファイントゥデイホールディングス、ファイントゥデイの従業員。

ピープル People

マテリアリティ	コミットメント	取り組み項目	KPI項目	数値目標（達成年度）	2024年度実績	2025年度施策	関連するSDGs
バリューチェーンにおける人権の尊重とDE&I促進	バリューチェーンにおける全ての人の基本的人権の尊重と、いかなる人権侵害も容認しないという方針をステークホルダーの皆さまと共有し、国連のビジネスと人権に関する指導原則など、グローバルレベルの人権原則に沿ってこの分野での責任を果たしていきます。	人権の尊重と責任あるバリューチェーンマネジメント	現在定義している重点人権リスクへの適切な対策の実行率※1	100%継続（毎年度）	100%	●人権デュー・ディリジェンスを継続実施 ●社内研修によって人権意識を向上	8 12 16
	肌の色、ジェンダー、社会的・文化的・地理的背景、生活環境、宗教や信条、身体的特徴など多様な価値観や考えを持った人々が、個性や能力を存分に発揮し、全ての人が自分らしく生きる社会の実現に貢献します。	製品・サービスを通じて、自己肯定感の向上と自分らしく生きる社会の実現に貢献	新製品提案時におけるDE&I確認プロセスの実施率※2	100%継続（毎年度）	—※3	●確認プロセスを徹底し、DE&Iへの意識を向上	5 10
		職場での性別・身体的特徴・国籍などによる不平等の解消	エンゲージメントサーベイにおける「発言・意見に対する承認」の肯定回答率	90%（2030年度）	78.8%※4	●幹部社員向けの評価トレーニングおよび360度フィードバックを実施	5 10
			女性管理職比率	35%（2030年度）	30.7%	●ジェンダーを問わず、誰もが活躍できる職場へ向けた人事制度を整備	
社員のウェルビーイング向上	社員一人ひとりにとって、身体的にも、精神的にも、社会的にも充実して活力高い状態を創り出していくために、仕事のやりがい（働くことによって得られる喜びや達成感）を高めるとともに、働きやすさ（社内環境や制度）を整備し、社員のウェルビーイング向上を実現します。	労働安全衛生とディーセントワークの推進	エンゲージメントサーベイにおける「やりがい」に対する肯定回答率	80%（2030年度）	65.5%※4	●美意識経営・美意識文化醸成に向けたトレーニングやグローバルコミュニケーションを実施	3 8
			重大労働災害発生件数	0件（毎年度）	0件	●怪我や病気に対する会社のサポートを拡充し、安心して働くことができる環境を整備	
		職場における人財の育成	エンゲージメントサーベイにおける「成長機会」の肯定回答率	80%（2030年度）	63.8%※4	●社内副業など協業と挑戦の機会を提供	3 4 8
			Values & Leadership Behaviorの浸透率（行動レベル）	95%（2030年度）	53.0%	●Leadership Behaviorを評価基準とした行動評価を導入	

※1 期初・期中に実施する人権デュー・ディリジェンスで特定したリスク。
※2 対象年度内に提案された新製品のうち、社内DE&I要件（チェック項目）を満たしたものの構成。
※3 新たに設定したKPIのため、2024年度実績なし。
※4 対象はファイントゥデイホールディングス、ファイントゥデイの従業員。

プラネット Planet

マテリアリティ	コミットメント	取り組み項目	KPI項目	数値目標（達成年度）	2024年度実績	2025年度施策	関連するSDGs
気候変動への対応	再生可能エネルギーの利用やエネルギー効率のよい設備導入等により、事業活動で排出されるCO_2を削減します。環境フレンドリー製品の提供とエコの習慣化の促進により、使用場面で排出されるCO_2を削減します。サプライヤーエンゲージメントの推進とCO_2排出量の少ない原材料の購入により、調達段階のCO_2を削減します。	温室効果ガス排出の削減	Scope 1、2排出量削減率（2021年比）	42%（2030年度）	78%	●グループ全体のGHG削減ロードマップを策定	7 13
			Scope 3排出量削減率（2021年比）	25%（2030年度）	5%		
自然・生物多様性保全と循環型社会の実現	生物多様性の保全、自然環境の負荷低減に貢献すると同時に、革新的な技術を積極的に活用することで、持続可能なビジネスを構築します。事業活動における自社とバリューチェーン全体であらゆる無駄をなくし、資源の有効活用を推進していきます。	持続可能な原材料の調達（主にパーム油）	サステナブルなパーム油の調達	100%（2030年度）	●TNFD分析を実施 ●RSPOへの加盟を継続	●TNFDレポートを開示 ●RSPO SC認証を取得 ●パーム油調達ロードマップを策定	8 12 15
		サステナブルな容器包装（主にプラスチック）	サステナブルな容器包装	100%（2030年度）	96%	●容器包装ガイドラインを改訂 ●KPI管理体制を構築	12 13 14 15
			主容器での石油由来バージンプラスチック使用量削減率（2022年比原単位）	25%以上（2030年度）	3%	●グループ全体のプラスチック削減中長期計画を策定	
		生産活動における水資源の保全	水原単位利用削減率（2021年比）：FTI	10%（2030年度）	21%	●グループ全体の水使用量を新規開示 ●工場拠点における水使用量削減計画を策定	6 12 13 14 15
			水原単位利用削減率（2021年比）：FTIV	10%（2030年度）	13%		

共栄 Prosperity

マテリアリティ	コミットメント	取り組み項目	KPI項目	数値目標（達成年度）	2024年度実績	2025年度施策	関連するSDGs
日々の暮らしをより美しく豊かに彩るイノベーション	生活者の多様なニーズに応える新たな価値をイノベーションにより創出し、心・身体・環境に美しさと健全な豊かさをもたらし続けます。	ブランドを通じたときめき体験による唯一無二の価値提供	カテゴリー内セグメントシェアNo.1獲得率	85%以上（2030年度）	75%	●各製品・地域に応じたプロモーションを実施	
		多様な価値を創造するイノベーション	アジアを中心とするグローバルな生活者に新たな価値を提供※1	毎年度1つ以上	—※2	検討中	
コミュニティのウェルビーイング向上	社会の公器として地域コミュニティのウェルビーイング向上を目指し、私たちの技術・人財・製品・資金等の資源を社会に還元することで、コミュニティへの貢献活動を積極的に行っていきます。	コミュニティへの貢献活動や寄付	NGO/NPO、公益法人、自治体など社外パートナーとの連携を継続	数値目標なし（毎年度）	5,100万円	●各拠点において、地域課題に根差した社会貢献活動を継続	

※1 新ブランド創出や既存製品の海外展開など。
※2 新たに設定したKPIのため、2024年度実績なし。

トップマネジメントを中心とする サステナビリティ推進体制を整備

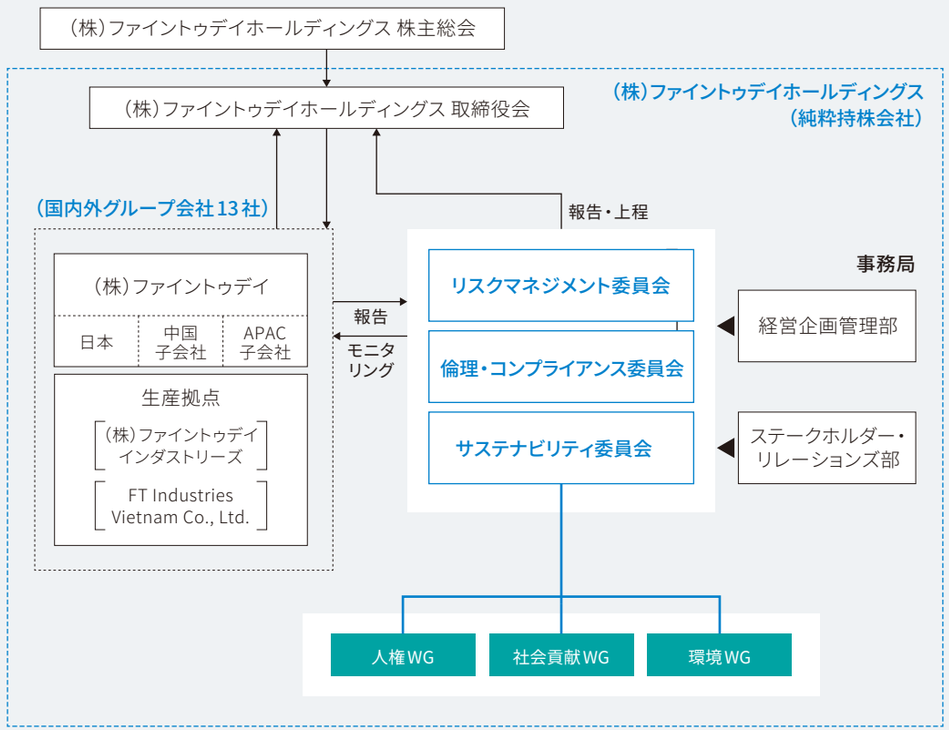
ファイントゥデイグループは、事業とサステナビリティにおけるリスクの把握・評価や、サステナビリティ活動における方針・計画の策定などを担う組織として、ファイントゥデイホールディングスの代表取締役CEOが責任者を務める「リスクマネジメント委員会」「倫理・コンプライアンス委員会」「サステナビリティ委員会」を設置しています。

サステナビリティ委員会のもとにはワーキンググループ（WG）を設置。各部門が実行するサステナビリティ活動計画のフォローや、注力テーマに関する実行計画の策定などについて中心的な役割を果たしています。

またファイントゥデイグループでは、役員、本部長の報酬決定に当たり、サステナビリティに関する指標を反映する制度を導入※しています。

※ 業績連動の賞与の支給に当たり、エンゲージメントサーベイ結果やGHG排出量に関連付けたサステナビリティ指標を設定し、その達成度の評価結果を支給額に反映する報酬制度を実施しています。また、役員の指名・報酬に関する決定を通じたガバナンス機能全体の強化に向けた検討を指名報酬委員会が進めています。

サステナビリティ推進体制（2025年6月末時点）



リスクマネジメント委員会

開催頻度	四半期に1回
委員長	代表取締役CEO
構成メンバー	子会社役員、執行役員、その他指名された者
主な役割	●グループのリスク管理方針・計画の策定・運用 ●インシデント発生時の緊急事態対応

倫理・コンプライアンス委員会

開催頻度	四半期に1回
委員長	代表取締役CEO
構成メンバー	子会社役員、執行役員
主な役割	●グループのコンプライアンス基本方針・計画の策定・運用 ●コンプライアンス教育のPDCAに関する審議

サステナビリティ委員会

開催頻度	四半期に1回
委員長	代表取締役CEO
構成メンバー	子会社役員、執行役員、その他委員長が指名する者
主な役割	●グループのサステナビリティに関わる重要施策の策定・審議・報告 ●グループのサステナビリティに関わる諸施策の課題共有・審議

ステークホルダーとの対話で得た声をサステナビリティ活動に反映

お客さま（生活者）

お客さま窓口や各種ソーシャルメディアを開設し、さまざまなお客さまとの接点を拡大。お客さまの声に真摯に耳を傾け、製品やサービスの品質マネジメントに反映することで、その信頼に応えています。

対話の方法・機会
- お客さま窓口
- ソーシャルメディア

小売業、卸売業

小売業、卸売業の声に真摯に耳を傾け、製品の改良や新製品の開発、サービスの向上につなげています。

対話の方法・機会
- 新製品・マーケティング説明会
- マーチャンダイジング提案会
- 製品勉強会

サプライヤー※

「ファイントゥデイグループ 調達方針」にのっとり、志を共にするサプライヤーとサステナブルで責任あるサプライチェーンの強化に取り組んでいます。

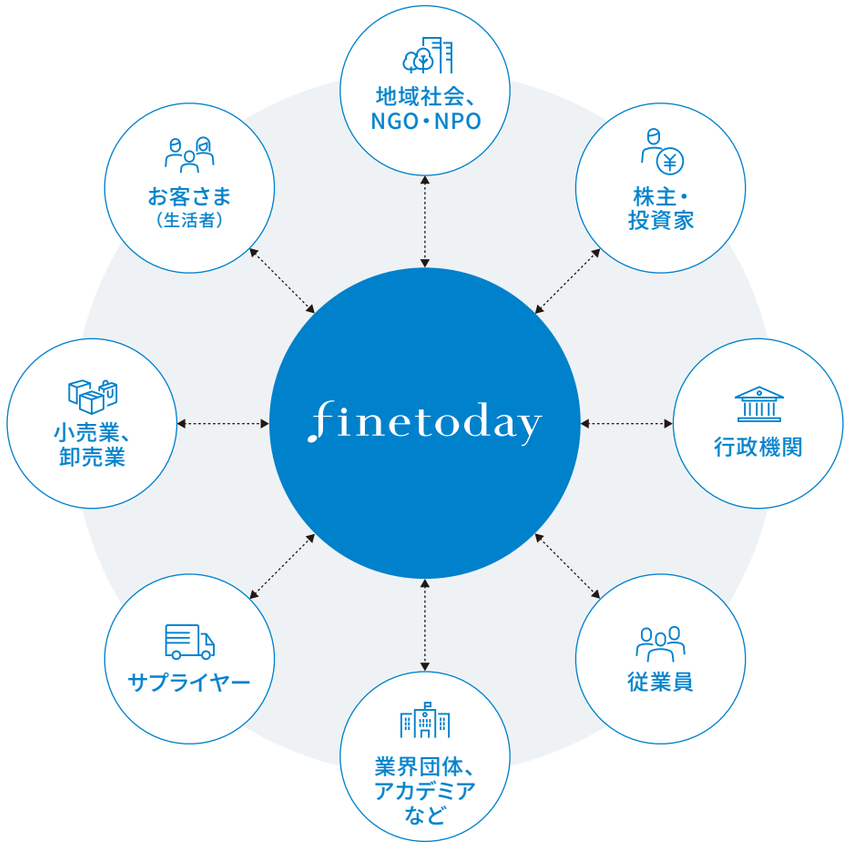
対話の方法・機会
- 「ファイントゥデイグループ サプライヤー行動基準」の順守を含む基本取引契約の締結

※ 製品に関するパッケージ、原材料などの生産用材、OEM・ODMなどの完成品のサプライヤー。

業界団体、アカデミアなど

業界団体と協働し、社会と業界の持続的発展に貢献しています。

対話の方法・機会
- 業界団体が主催する協議会への参画
- 情報収集・意見交換
- 外部有識者とのダイアログ



地域社会、NGO・NPO

企業市民として地域社会やNGO・NPOの活動に積極的に参画し、健全で持続的な社会の実現や環境課題の解決に貢献しています。

対話の方法・機会
- 「ファイントゥデイグループ 社会貢献方針」にのっとった社会貢献活動
- 現金寄付、製品寄付
- ボランティア活動
- 活動・寄付先の声の紹介

株主・投資家

企業価値向上のため、情報開示、意見交換を図り、信頼と期待に応えます。

対話の方法・機会
- 情報収集
- 意見交換
- 情報開示
- 海外ロードショー

行政機関

国内外の関係法令・ルールの順守はもとより、行政機関と連携して、社会課題の解決や国際社会の持続的発展に貢献しています。

対話の方法・機会
- 意見交換
- 自治体などが主催するイベントへの協力

従業員

性別、国籍、宗教、障がいの有無、性的指向などに関わりなく、多様な人財が異なる強みを活かして自律的に活躍できる組織を目指しています。

対話の方法・機会
- エンゲージメントサーベイ
- 内部通報・相談窓口
- リーダーシップ開発
- バリューやLeadership Behaviorの浸透セッション、グローバル会議